

セミナー報告

ERINA地域セミナー

駐新潟大韓民国総領事講演会「21世紀の韓日関係」

日 時：平成30年5月10日

場 所：朱鷺メッセ2階 中会議室201

講 師：駐新潟大韓民国総領事 鄭美愛(ジョン・ミエ)

1. 総領事館について

外交を行う上で重要な拠点としての在外公館には、大使館、総領事館、政府代表部がある。基本的に、大使館は各国の首都に置かれ、国を代表する。総領事館は、世界の主要な都市に置かれ、その地方の在留邦人(自国民)の保護、政治・経済その他の情報の収集、パスポートの発給や外国人へのビザ発給、広報文化活動や邦人の生命・財産の保護にあたる。政府代表部は国交のない国や主要な国際機関に置かれる。例えば韓国の場合には台北にあるし、1965年の日韓国交正常化までは日本にも置かれていた。

大使館と総領事館は、基本的な業務内容に変わりはないが、大使館は中央政府を対象として活動する一方、総領事館は地方政府と仕事をする。韓国の在外公館は全世界に163カ所ある。そのうちアジアには46カ所と、最も多い。アジアの中でも、日本には10カ所と最多だ。具体的には、東京に大使館があり、札幌、仙台、新潟、横浜、名古屋、大阪、神戸、広島、福岡に総領事館がある。駐新潟総領事館は1978年に開設され、今年でちょうど開設40周年になる。2006年に万代鳥ビルの8階に移転して現在に至る。総領事として私は15代目にあたる。

管轄する4県の在外邦人は、2017年6月末現在、長野県3442名、新潟県1789名、石川県1410名、富山県918名となっている。長野県に韓国人が最も多いが、1978年当時、新潟は日本における北朝鮮への唯一の日本の玄関口であり、管轄地域における新潟市の担う役割を考慮し、

新潟県に総領事館が設置されることとなった。1990年には新潟県のソウル事務所が設立されている。新潟市と蕨山(ウルサン)市、上越市と浦項(ポハン)市、新発田市と議政府(ウイジョンブ)市が友好協定を結んでいる。

総領事館の主要な事業は、「身近な韓国」、「韓国映画祭」、「日韓ハンガウィ祭り in 新潟」だ。「身近な韓国」は3カ月周期で「韓国映画上映会」、「韓国料理教室」、「特別講演会」をやっている。この3つの中では「韓国料理教室」は、もっとも人気があり、定員は30人に対して常に100人ぐらいの応募があり、抽選で参加者を選んでいる。「特別講演会」は在日韓国人の有識者を招いて講演をしてもらっている。今年の「韓国映画祭」を今、やっている。第1弾～第3弾が終わり、第4弾が残っている。「タクシー運転手-約束は海を越えて」という映画で、1980年5月の光州民主化運動を扱った非常に優れた映画だ。「日韓ハンガウィ祭り in 新潟」は今年で3回目になり、9月28日に「りゅーとびあ」で開催する。これは、9月か10月に東京とソウルで同時開催する日韓の文化祭りの一大イベント「日韓交流おまつり」の新潟版として、総領事館が2年前から始めたものだ。

2. 韓日文化交流の歴史と現状

(1) 韓日における人的交流

1945年、韓国は日本の植民地から独立国家となった。その後、1948年に大韓民国政府が樹立され、1950年に韓国戦争(朝鮮戦争)が勃発。韓日国交正常化

に向けての会談は1952年から始まり、国交正常化は13年後の1965年。その際、韓日基本関係条約が締結された。その後の日韓関係にはいい時期もあれば悪い時期もあり、紆余曲折があったが、1998年、金大中(キム・デジュン)大統領と小渕恵三総理の間で「21世紀の新たな韓日パートナーシップ」共同宣言が発表された。その後も、金大中政権時代にはよい関係が築けたと思う。

今年はちょうど「韓日パートナーシップ」共同宣言から20周年にあたり、日韓両国の間で、20周年を記念したいろいろな行事の計画が今、立てられているところだ。1965年の日韓国交正常化以来の日韓関係の変化を見ると、1965年当時は海外旅行も自由にできない時代だったので人の往来も少なかった。しかし、今は1日2万6000人ぐらいが韓国と日本を往来している。年間960万人ぐらいだが、すぐに1000万人の時代に入ると思う。

(2) 日本における韓流

1998年の韓日共同宣言、2002年のFIFAワールドカップ共同開催を経て、ドラマ「冬のソナタ」の大ヒット以来、文化交流の春が到来した。

(3) 21世紀の新しい韓日パートナーシップ共同宣言

1945年に日本の植民地から独立して以来、1965年に国交が正常化したにもかかわらず、韓国では日本の大衆文化は禁止されていた。しかし、1998年の共同宣言をきっかけに、日本の大衆文化の開放措置が取られた。共同宣言の5大基本原則

は、①国民的合意に基づいた政策推進、②段階的で積極的なアプローチ、③相互主義、④健全な文化交流、⑤民間レベルの交流推進、となっている。特に「過去の韓日両国間の不幸な歴史と関連性の少ない分野から、そして文化的価値の高い分野から、段階的・漸進的進めていく」ことで合意された。

(4) 韓国における日本大衆文化開放

当初は4大映画祭の受賞作品しか上映できなかったが、今はほぼ全面解禁になっている。ただ、地上波放送はまだ全面解禁には至っていない。実は、2001年7月に、2002年のFIFAワールドカップ共同開催を控え、日本の大衆文化の全面解禁をする方針だったが、「新しい歴史をつくる会」の歴史教科書問題が表面化し、その結果、全面解禁に至らなかった経緯がある。その後、2011年2月、韓国文化体育観光部長官が日本ドラマの追加開放を示唆したが、開放には至らなかった。

(5) 韓日における人的・文化的交流

このように、韓国と日本は人的・文化的交流で急成長している。日本で「韓流」という言葉が流行って一般的になったが、韓国では「日流」という言葉が流行っているのご存知だろうか？ 双方向の文化交流が定着し、まさに「文化のハイブリッド現象」の時代に入っているといえよう。このような交流量の拡大が相互理解と信頼の絆を深め、質的深化に進むと、私は確信している。

(6) 韓国における「日流」

2015年の朝日新聞に「歴史さておき、韓国『日流』」という記事がある。それによると当時、ロッセマートの4月15～30日のおもちゃ売上高の1位と2位が「妖怪ウォッチ」関連商品だった。また大手書店「教保文庫」の2014年ベストセラー4位が「女のいない男たち」（村上春樹）、5位が「ナミヤ文具店の奇跡」（東野圭吾）だった。2014年に高校生が「第2外国語」に日本語を選んだ人数は63万5856人と全体の49.8%を占めてトップ、2位の中国語は34万1817人と日本語の約半分だった。日本酒、ビールもたくさん売れている。ソウルの

繁華街では居酒屋等日本食関連の店が続々できている。これらは2015年の話で、2018年の今はもっと繁盛している。

このように、さまざまな日本の文化、いわゆる「日流」が韓国人に親しまれ、普及している。クールジャパンに象徴される日本の文化商品が世代を超えて人気を集めている。新潟県の日本酒輸出先は3年連続で韓国が1位だ。毎年800～1000冊の日本文学作品が翻訳・出版され、村上春樹の小説は日本とほぼ同時発売だ。2011年にはAKB48の総選挙が韓国の映画館で生中継された。2014年2月には日本文化の専門誌「BOON」が創刊、今も続いているのは、それだけの需要があるということだろう。

(7) 両国の人的交流の課題

訪韓日本人の数は2013年には270万人を超えたが、2014年には230万人弱に減り、今もあまり変わらない。一方、訪日韓国人を見ると、2013年に245万人だったのが、2017年では714万人。約3倍の差がある。韓国の総人口が約5000万人、日本が約1億2000万人なので、人口比で考えると、8～9倍の韓国人が日本を訪れていることになる。

昨日（5月9日）、日中韓サミットが東京で開かれ、文在寅（ムン・ジェイン）大統領が、韓日関係の改善のために日本の方がもっと韓国に来てほしいという発言を安倍総理にしたそう。日本の方は韓国人が反日感情を持っていると思っているかもしれない。確かにそういうところがあるのは否めないが、韓国人は歴史問題や領土問題とは区別して日本に接しているとはっきりと言うことができる。

3. 21世紀の韓日関係

21世紀は国際情勢が激しく動いている。基本的には、①多極化の進行、②アジア・太平洋時代の到来、③グローバル・イシューの拡散、④国家主権の相対化だ。韓国と日本は多様性、不確実性の中で、民主主義、市場経済、法治主義、人権という共通の価値観を共有している。冷戦が終結したといわれる今、冷戦が続いている唯一の地域が東アジアだ。その

中で韓国と日本が共通の価値観を共有することを軽視してはいけない。

北東アジア経済はグローバル・イシューへの対応のためにパートナーシップが必要だ。昨日の3カ国サミットでも、中国からのPM2.5対策について具体的に話し合われたという。このような問題は一国だけでは解決できない。

韓国と日本は、「韓流」、「日流」という自国の文化を世界に発信することができるソフト・パワーを持っている国でもある。共生と協力を基にWIN-WINの関係へと発展することが十分できるし、そうしなければならぬ国だといえる。

(1) 協力パートナーの再確認

韓国が反日だけではないのと同様に、日本も嫌韓だけではないだろう。日本の方の中に韓国を誤解している人がいるように、韓国にも日本をよく知らずに偏見と先入観で「日本は嫌韓の国だ」と思う人がいる。相互信頼を築くためには、お互いを理解しなければならない。互いがパートナーだと再確認することは非常に重要だ。

国力の相対的標準化と民間レベルの交流の促進が今、行われている。以前は、圧倒的な国力の差があることから、韓国が日本のパートナーになれるかについて疑問視する声があった。パートナーではなく、援助すべき国でもあった。しかし今は、パートナーになれると思う。韓国は中堅国家（Middle Power）としての国際的地位が伸長しており、経済力、国際社会での発言力、大衆文化の勢いという面でも、日本と肩を並べ、パートナーになれる国になったといえる。韓国も日本も、従来の支配・被支配、あるいは先進・後進のような対立的構図から離れ、否定的な認識から脱却することが非常に重要だと思う。

(2) 北東アジアの情勢に対応する戦略的協力

国際情勢は、北東アジアの情勢に対応する戦略的な協力関係を必要としている。中国の浮上、世界が注目している北朝鮮問題。これらに対応するためには、韓国と日本が協力しなければならない。

韓日関係の新しい幕を開けたのは、文在寅政権の発足であろう。文政権は今日

(5月10日)でちょうど発足1周年になる。不幸にも朴槿恵(パク・クネ)政権でいろいろあり、弾劾を求める国民の「ろうそくデモ」が毎日のようにあった。私も毎日のように参加した。2016年10月29日から2017年4月25日まで、約1700万人の市民が参加し、ろうそく革命を成功させ、そして文在寅政権が誕生した。

文政権は、「韓半島運転手」論を打ち出した。これまで韓半島の運命を動かしてきたのはアメリカ、冷戦時代の旧ソ連、中国という巨大国家だった。しかし今や韓半島の運命は私たちが決める。私たちの運転する車にアメリカも中国も日本も乗せて、私たちが道を開いていく。この「韓半島運転手」論を掲げて動き出し、4月27日に南北首脳会談が成功した。

これまで南北の首脳は3回会っている。2006年6月に平壤で金大中大統領と金正日(キム・ジョンイル)国防委員長が会い、「6.15南北共同宣言」が発表された。2007年10月には盧武鉉(ノムヒョン)大統領と金正日国防委員長が会い、「南北関係の発展と平和繁栄のための宣言(10.4宣言)」が発表された。そして2018年4月27日に板門店「平和の家」で文在寅大統領と金正恩(キム・ジョンウン)国務委員長が会い、「板門店(パンムンジョム)宣言」を発表した。

このような南北首脳会談が成功するまでには、文在寅大統領の努力、文政権の平和へのプロセスがあった。文大統領は2017年6月、世界テコンドー選手権大会の祝辞で、北朝鮮の平昌冬季五輪参加を初めて提案し、同年7月にはドイツのケルバー財団での招請演説で、韓半島の平和に向けた構想(ベルリン構想)を発表した。そして北朝鮮の金正恩国務委員長が今年1月1日の新年辞で、平昌冬季五輪への代表団派遣や対話の意向を表明。2月9日の平昌冬季五輪開会式で、南北選手団が合同入場行進した。

開会式翌日に文大統領は北朝鮮の高位級代表団と面会し、文大統領を平壤に招待する内容の金正恩委員長からの親書を金与正(キム・ヨジョン)党中央委員会第1副部長から手渡された。3月5日、対北朝鮮特別使節団(主席特使:鄭義溶(チョン・ウィヨン)国家安保室長)が平

壤を訪問して金正恩委員長と面会し、翌6日、対北朝鮮特別使節団が4月末に南北首脳会談を板門店で開催することを発表、4月27日に南北首脳会談「板門店宣言」がなされた。

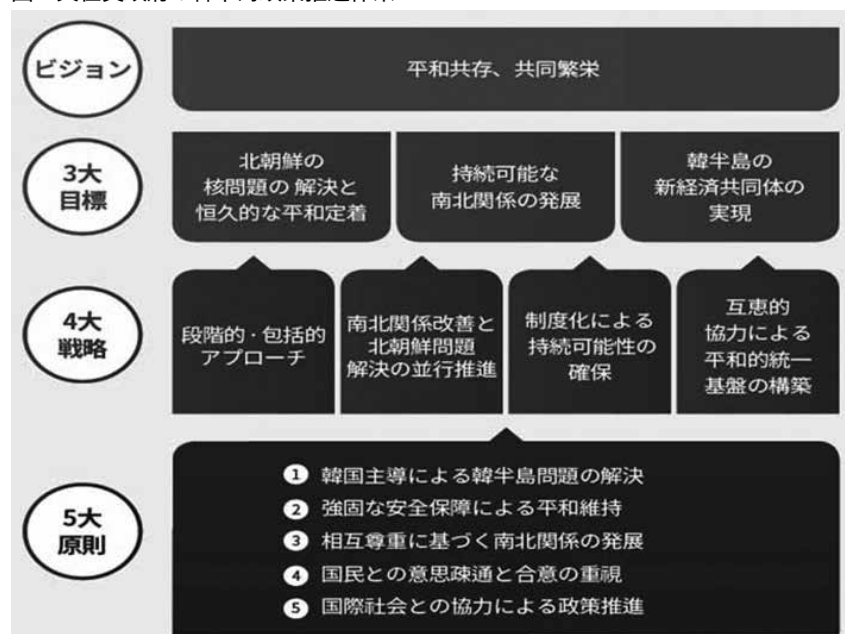
2018年の南北首脳会談の意義は、史上初めての米朝首脳会談につながるものになっていることだ。米朝首脳会談が成功すれば、それは国際社会が希望する北朝鮮の核問題の平和的解決と韓半島の平和定着という、歴史的なマイルストーンになるに違いない。

南北首脳会談のアジェンダは「韓半島非核化」、「韓半島平和定着」、「南北関係発展」の3つだ。国際社会は北朝鮮の非核化だけを焦点にしているが、韓国が今回、南北首脳会談で求めたのはこの3つだ。韓国は北朝鮮から核を取り除くことだけを望んでいるのではなく、韓半島の永久的な平和の定着が究極の目標だ(図)。

(3) 国際舞台とさまざまな分野における協力強化

アジアで二つだけの OECD 加盟国である韓日が、一致した対外メッセージを発信することが重要だ。また、対外援助、グリーン成長、新・再生エネルギー開発など、グローバルガバナンスでの主導的役割を發揮することも日韓の役割だろう。日韓関係はこのような協力関係に基づく共生・共栄の関係に発展することができると思う。

図 文在寅政府の韓半島政策推進体系



4. 韓日の友好のため人生と命を捧げた人々

田内千鶴子(韓国名:尹鶴子(ユン・ハクチャ))

高知県高知市生まれ。1938年、日本植民地時代の朝鮮の全羅南道木浦(モッポ)市で尹致浩と結婚。夫と共に孤児救済のために「共生園」で働いたが、韓国戦争で夫が行方不明に。その後も孤児救済に尽力し、約3000人の孤児を守り育て1965年韓国文化勳章国民賞を受賞した。

1968年木浦市で死去。木浦市では市民葬を行い、3万人が出席。彼女の生涯は『愛の黙示録』という題名で、日韓合作で映画化された。

李秀賢(イ・スヒョン)

日本に留学していた2001年1月、東京の新大久保駅で日本人を助けて死亡。この事故を題材に、日韓友情年2005の記念事業として、日韓合作映画「あなたを忘れない」が製作された。試写会には、外務省の要請により天皇皇后両陛下が出席した。

2002年2月、「李秀賢奨学会」が発足し、2017年までに18の国・地域の844人の学生を支援した。

5. 韓日関係の未来のために

共生・協力の韓日関係を構築するためには、歴史認識が欠かせない。歴史認識について普通の韓国人がいつも言っているのは、日本に正しい歴史認識を持ってほしいということだ。しかし私は、「正しい」という道徳的な優越感は捨てた方がよいと思う。歴史ほど、時代、人、政権によって変わるものはないだろう。「歴史が事実」というより「歴史が事実化される」のだと思う。だから、韓国人と日本人の双方が歴史認識を持つことが大切だ。

<質疑応答>

Q. 着任まで知らなかった新潟の良い場所、習慣などを教えてほしい。

A. 日本在住11年目になる。日本での暮らしには随分慣れたので、韓国人観光客ほど物事が新鮮に見えないかもしれない。良い場所、おいしい食べ物があり多くて一言でいい切れないが、それと裏腹に、残念ながらこれといったものが思い浮かばない。昔は、川端康成の小説にあるように、雪国といえば新潟だった。しかし韓国ではイ・ビョンホン主演の映画「アリス」が大ヒットし、その時のロケが秋田で行われたため、今は雪国と言えば秋田という人が多い。韓国の若者は川端康成を知らない。だから、新潟の魅力をもっと考えて韓国に発信してほしい。最近、『千と千尋の神隠し』のたらい舟を求めて、台湾からの観光客が佐渡に集まっていると聞いた。そのようにチャンスを生かすことが必要だと感じる。

Q. 韓国で大統領経験者が任期後に逮捕・拘束されるのは理解しにくい、ろうそく革命で集まった人たちは、どういう人たちが多く、本当に政権交代を望んで集まったのか他に目的があったのか。

A. 大統領が任期後に拘束されたりするのは残念なことだ。しかし逆に言えば、任期中に悪いことをした大統領が裁かれる

ではどうすればよいかというと、歴史に正面から向かい合うことだ。韓日両国民の真の心のふれあいが必要だと思う。日本人は戦前の、韓国人は戦後の歴史についてお互いに知る必要があると思う。相手国に関心を持ち、理解を深めるための努力をお互いにしなければならないと思う。

結びにかえて、金大中大統領の日本国会演説の中の言葉を引用したい。

わずか50年にも満たない不幸な歴史のために、1500年にわたる交流と協力の歴史全体を無意味なものにするということは、

のは民主主義だと確信している。そういうことが繰り返されるのは恥ずかしいことでもある。大統領に選ばれた人は、自分の任期中は断固として公正な行動をとってもらいたい。

元大統領が拘束されたり裁判で裁かれたりするのは、政権交代がなければできない。政権交代は民主主義の発展につながると政治学者の一人として思っている。2年前の秋から始まったろうそくデモには、学生からお年寄りまで韓国国民が参加した。一部の朴支持者を除いて、保守・進歩を問わずデモに参加した。その後、文在寅政権が発足し、支持率は現在80%を超えている。当初は60~70%だったが、1年経ってさらに高くなった。民主主義、南北関係改善への期待感、韓国国民全般に広がっていると思う。

Q. 第2外国語に日本語を選ぶ学生が多いのは、何かのメリットがあるからなのか？それとも純粋に日本への興味なのか？

A. 日本への親近感、近い国だということがいちばん大きいのではないかと。今日紹介した朝日新聞の記事は2015年の統計だから、今は中国語を選ぶ学生も増えてきているが、韓国では青年失業率が2ケタに達しようとしているほど、大学を卒業しても就職できない若者が増えている。昨日のサミットでも文大統領が安倍総理に要請をしたと聞いているが、韓国人の若者の日本での就職には、私個人としても非常に関心を持っているし、韓国政府レベルでも日

実に愚かなことであります。

また、それは長久な交流の歴史を築いてきた両国の先祖に、そして将来の子孫に対して恥ずかしく、かつ非難されるべきことではないでしょうか。

1965年の韓日国交正常化以降、われわれ両国間の交流と協力は、飛躍的に拡大しました。

今はお互いに必要不可欠なパートナー関係に発展しています。

1998年10月

本政府との協力を非常に積極的になっている。その面でもこれから日本語を勉強する学生が増えていくと思う。

Q. 日本の若者は韓国の文化を受け入れるが、年配の人の中には韓国に偏見、わだかまりのある人が多いように思う。韓国の良さが書かれているメディアコンテンツがあれば教えてほしい。

A. 総領事館でも「身近な韓国」事業を毎月第3土曜日に行っている、私たちのホームページをご覧になってほしい。駐日韓国文化院もある。探せばたくさんあると思う。

昨日の3カ国サミットの晩さん会で安倍総理が文大統領に、韓国で自分は嫌われていると思っていたのに、平昌五輪の開会式に入場した際、韓国の国民が歓声を上げて歓迎してくれ非常に驚いた、と言ったそう。韓国人は安倍総理個人に対して反感を持っているのではなく、韓国人の歴史認識に反する発言をする日本の総理大臣を批判するのだ。韓国国民は日本食、アニメ、漫画、日本酒も好きなので、歴史と文化を分けて楽しむ、分けて考えている。

Q. 韓国から日本に来る留学生の数は、少なくとも新潟ではかなり減った印象があり、その要因が知りたい。また、6月の韓国の統一地方選挙の見通しも教えてほしい。

A. 韓国人留学生はこれからどんどん増えると思う。韓国では就職難で、日本で就職したいという若者が増えている。対日関係が良くなかった時期、大学では日本関連学科の数を減らしたところもあったが、現在では日本学科の競争率、偏差値が高くなり、就職率が良いことで人気がある。最近すこし減ったのは、福島原発事故がいちばんの原因だ。本人が行きたくても、親が行かせないこともある。私が大学にいた頃は、交換留学生を集めるのにも苦労した時期があった。しかし今はたくさんの韓国人大学生が日本に来ているし、日本での留学の希望を持っている若者がたくさんいる。長期的に、留学生の数は増えていくと思う。

韓国は6月13日統一地方選挙を控えているが、文在寅大統領の最近の支持率は最も新しいもので83%だ。保守党が首長をやっているところでさえも危機に瀕している、という統計がたくさんある。民主党の圧倒的な勝利が予想され、保守が圧倒的に強い地域でも変化の兆しがあるとされている。

Q. 私は一昨年、韓国の学生を雇用するためにソウルに行った。エントリーは多くても、実際に面接に来たのは少なかった。日本に就職希望者が多いと聞いていた

が、実際はそのような状況だった。財閥系企業に入れない場合、マルチ商法的なものや、ネットビジネスをやる若者が増えていくという話も聞いた。最近の若者の就職事情はどうか。

A. 韓国の名門3大学を、頭文字をとってSKY（ソウル、高麗、延世）と表すが、そのSKYを出ても就職が難しいとよくいわれている。韓国では国やマスコミの大学ランク付けに、「卒業生の就職率」が非常に重視されている。大学の先生たちも、学生の就職に力を入れなければならない。特に地方のあまり有名でない私立大学の場合、先生方は本当に苦労している。2017年末の青年失業率は9.9%だが、青年体感失業率は21.4%で、若者の厳しい就職事情は続いている。

Q. 合計特殊出生率で日本は世界の中で相当下の方だが、そのいちばん下に韓国があった。このことに関する韓国のニュースが流れてこないが、何らかの対策が採られているのだろうか？

A. 韓国の少子高齢化については、日本で報道がないだけで、韓国ではたくさんの対策がとられている。人口問題は社会的、国家的危機として扱われている。

Q. 若者が日本に就職に行くと少子化はさらに進むのではないかな？

A. そういう面もないわけではない。本来なら、韓国経済が良くなり、若者が韓国で就職できるのが望ましいが、一方でグローバル時代に若者の海外進出はポジティブな面が多いと思う。

Q. 人口問題も南北統一のモチベーションになっているだろうか？ 統一後にドイツがさらに強くなったと同じ可能性が期待できるだろうか？

A. 統一によって少子高齢化が改善されるというよりは、開発や経済発展のために就職先が増えることがよく言われている。また、韓国発展につながるものもたくさんあると思う。そういう意味で、平昌五輪は重要なきっかけになった。

南北が分断されてずいぶん経っており、今の若者の中では「北朝鮮が同じ民族であり、韓半島は統一すべきだ」という意識が薄れてきている。北朝鮮から応援団が来たり、女子アイスホッケーの合同チームができて、一緒に応援したりして、「ああ、やはり同じ民族なのだ」という韓民族としてのアイデンティティを持つ重要なきっかけとなったのが平昌五輪だった。